

4年■組 総合的な学習の時間学習指導案

授業者：●●●●

1 取り上げる人権課題「アイヌの人々」

2 取り上げた人権課題の背景と現状

現在、アイヌ民族にルーツをもつ人々は日本中に居住している。東京都にはアイヌの血を引く人々が多く住んでおり、台東区に寄せられた相談には、「アイヌであると指摘され馬鹿にされた」「アイヌを理由に交際、結婚を断られた。」などがあり、今なお人権侵害があることが分かる。

アイヌ民族資料館前館長の中村齋（いつき）氏によれば、その発端は、明治時代に家族と離れて本州から移住した和人が、アイヌ民族を自分たちより下に見ることで過酷な境遇から自尊心を保っていたということが挙げられるという。近年では、この偏見がより一層深刻化し、「アイヌというだけでだめだ。」という決め付けた意識になり、先述したような人権侵害がいまだに起きている。

3 児童の実態

「アイヌだからだめだという、決め付けた見方が差別を生んでいる。」という中村氏の捉えを基に、この人権課題を生み出す意識に関して、本学級の児童の日常の様子を観察した。すると、人間関係のトラブル等において、事実を確かめずに決めつけて行動している様子が見られた。この姿を生む意識を探るため、児童がもつ意識についてアンケート調査を行った。以下はその結果である。

【アンケート調査等からみた本学級の実態】

〈分析の観点〉	概ね思う
人間は誰もが大切にされるべきだと思う。	100%
取り組む前から、「この人には無理だろう。」と思ったことがある。	約90%
アイヌ民族について知っていることがある。	約10%

この結果から、本学級の約90%の児童は、「誰もが大切にされるべきだ。」という意識をもちながらも、物事に取り組む前からその人を一面的に見て、「この人には無理だろう。」と決めつけてしまう意識があることが分かった。

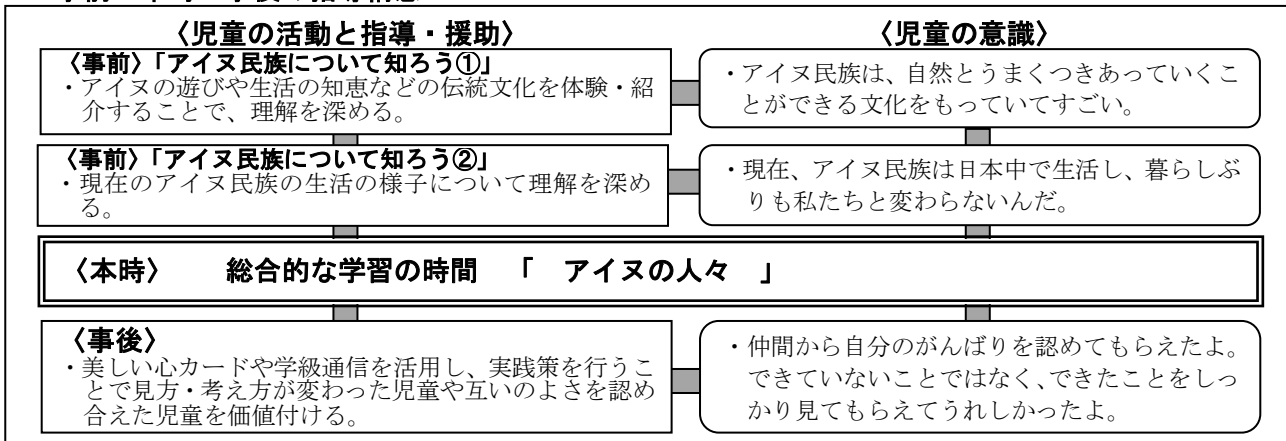
他人がもつよさを見ようとせず、一面的な見方で決めつけてしまうことは、その人のもつよさや可能性を否定し、よりよく生きることを阻害することにつながっていく。

また、児童はアイヌ民族について十分な理解をしていないことも分かった。本学習を通してアイヌがもつ優れた文化についての理解を図りつつ、他人を一面的にしか見ず、決めつけてしまうことの危うさに触れ、実践策をもてるようにしていきたい。

4 指導改善の手立て

- ・アイヌ民族の方から直接、体験談や思いを聞くことで、自分にも事実を確かめずに決めつけてしまう意識があることに気付くことができるようにする。
- ・自分たちの学びや考えた実践策をアイヌ民族の人に評価してもらうことで、積極的に実践策を行っていく意識を高める。

5 事前・本時・事後の指導構想



6 本時の目標

アイヌ民族に対する偏見や差別の要因について考える活動を通して、それらを生み出すものが、他人がもつよさを見ずに、一面的な見方で他人を決め付けて見てしまうことであり、その意識は自分にもあることに気付き、そのような見方を改めていくための実践策をもつことができる。

7 本時の展開

過程	主な学習活動	見届ける視点(◇)と指導・援助
つ か む 5 分 見 い だ す 15 分	<p>1 第1資料を読んだ感想を交流する。</p> <p>アイヌ民族資料館前館長 中村齋さんの話 私の知り合いに、北海道開拓記念館で働いていた女性（Aさん）がいます。彼女は男性からプロポーズされ、両親に報告すると、両親は男性の出身地を調べました。出身地がアイヌ民族が多く住む白老であることや、彼がアイヌ民族であることが分かると、「なぜアイヌの様な劣った民族と結婚するんだ」と彼女の両親は結婚に猛反対し、結局その話はなくなりました。彼女はとても悔しい思いをして涙を流していました。</p> <ul style="list-style-type: none"> アイヌ民族というだけで反対されるのはおかしいと思った。 なぜ、アイヌ民族だと結婚を反対されるのだろう。 <p>Aさんがアイヌ民族との結婚を反対されたのはなぜか。</p> <p>2 Aさんが結婚を反対された理由を小グループで交流し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> アイヌ民族はだめな民族だと思い込んでいたから反対した。 劣っている民族と結婚すると娘が不幸になると思ったから反対したと思う。 周りから変な目で見られると思ったから反対したと思う。 <p>アイヌ民族はよくないものだという決め付けた意識があったから、結婚を反対されたんだ。</p> <p>【確かにする場】</p> <p>3 アイヌの方の差別の経験やその時の思いを聞き、自分にも一面的な見方で決め付けてしまう心があることに気付く。</p> <p>「アイヌ民族の方の話」</p> <ul style="list-style-type: none"> アイヌというだけで厳しく差別されてきたこと。 決めつけてしまう心の弱さが差別がなくなならない要因。 決めつける心は誰もがもっていること。 今までに他人を決めつけた見方で見たことはないか。 周りの人が、「この人はアイヌだからだめだ」という決め付けた見方をしなかったことで、幸せになれた事例。 自分もAさんの両親のように、他人を低く見ってしまう意識があるんだ。この意識が他人を傷つけてしまうんだ。 自分はアイヌ民族への差別に関係ないと思っていたけれど、自分も持っている決めつける見方が、この差別が解消されない理由だと分かり、他人事だと思った自分が情けない。 <p>【学習成立を見届ける場】</p>	<p>◇問題場面を捉えることができているか。(つぶやき、発言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 挿絵を使うことで、問題場面を具体的にイメージできるようにし、差別を受けた人の思いに共感できるようにする。 <p>◇結婚を反対された理由を様々な視点から考えているか。(つぶやき、発言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小グループ交流から全体交流に移すことで多様な意見が出るようにする。 出た意見の共通点を考えることで、アイヌへの差別の背景が決め付けてしまう心だということに気付くことができるようにする。
確 か に す る 15 分 で き る 10 分	<p>4 決め付けた見方をしないようにするための具体的な実践策をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日美しい心カードを書くことで、相手のよさをいろいろと見付け、根拠のない決め付けをしないようにしたい。 うわさ話を聞いた時には、それが本当のことか自分できちんと確かめてから行動できるようにしたい。 <p>5 各自が考えた実践策についてアイヌの人に評価してもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が決めた実践策をしていくことは、偏見や差別を改善していく上でとても大切なことなんだ。だれもがよりよく生きていくことができるように取り組んでいきたい。 	<p>【人権教育の観点】</p> <p>自分の中にも他人を不幸にするような、決め付けてしまう心があることに気付き、その意識を改善するための実践策をもって主体的に行動しようとすることができる。(行動力)</p> <p><そのための手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> アイヌ民族の方から「みんなにも決め付けてしまうことはないか」と問われることで、自分も事実を確かめずに決め付けてしまう心があることに気付くことができるようにする。 自分たちの学びや考えた実践策をアイヌ民族の人に評価してもらうことで、積極的に実践策を行っていく意識を高める。 <p>【評価規準】</p> <p>◇相手もつよさを知らないことが他人を低く見ることにつながり、それが偏見や差別を生むことに気付き、その意識を改善しようとする主体的に行動しようとしている。(記述・発言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> アイヌの方に実践策を評価してもらおう。

解 説

1. アイヌの人々の人権を取り上げるに当たって

アイヌは北海道等に先住していた民族であり、独自の文化をもっていました。近世以降、松前藩や明治政府の支配の中で伝統的な文化を放棄させられました。こうした北海道開拓の過程で偏見や差別が強まったと考えられます。現在でも、アイヌの人々に対する理解は十分ではなく、学校におけるいじめや、就職、結婚等における差別が残っています。

平成 25 年の「北海道アイヌ生活実態調査」では、「アイヌ民族の理解を深める取組を充実する」ことが学校教育に期待されています。そのような現状を踏まえ、アイヌの人々の人権を取り上げて学ぶことは大変価値のあることだと言えるでしょう。

2. 本実践の指導上のポイント

アイヌの人々の人権について考える上で大切なのは、差別の歴史的経緯や、独自の文化等について知ることです。本実践では、アイヌの方と実際にふれあい、事前にその文化を体験します。大変貴重な機会であり、そのよさを、実感をもって知ることができています。

第 1 資料では、アイヌの人々に対する偏見が、結婚差別の要因となっていることを明らかにします。この時、児童は傍観者的な立場から考えています。「確かにする場」では、アイヌの方の言葉を踏まえ、決めつけた目で仲間を見る自分の弱さに気付く時間を設けています。

この実践では、アイヌの方や学級の仲間との関わり合いをととても大切にしています。改めて、よりよい人間関係をつくるのが、偏見や差別の解消につながると気づかされます。